



号外

2021年4月発行

多良間村



子ども議会だより



令和3年 多良間村子ども議会開催

もくじ

子ども議会の目的 ……………	2P	議長あいさつ、教育長評論 ……………	9P
議会傍聴とリハーサル ……………	3P	子ども議会を終えての感想 ……………	10P
子ども議会本番 ……………	4P	子ども議会を終えての感想、 議員からの感想 ……………	11P
一般質問 ……………	5P~8P	編集を終えて ……………	12P

村公式HPでも
読めます





子ども議会の目的

多良間中学校では、「将来、多良間村に貢献できる人材を育成すること」を目的に、**キャリア教育**を推進しています。その一環で、中学一年生は「**地域に対する愛着と誇り**」を高めるために、多良間村課題発見・解決プロジェクトとして、多良間村の更なる活性化に向けて考える取り組みを行っています。そこで、地域の課題や産業等の活性化について、生徒自ら考えた事を発信することや、地方自治への興味関心を高める機会として「多良間村子ども議会」の開催を要望いたします。

子ども議会とは？

未来を担う子ども達が、議員として子ども議会を経験することにより、村議会の仕組みや、流れを学びふるさと多良間の行政に興味、関心を持つことを目的に行う「議会体験学習」です。

キャリア教育

II

「将来、社会で生きていくための力を育てる」

子ども達のメリット

- 学びと社会のつながりが分かる
- 今と将来の私の繋がりが見える
- 多くの出会いによって私の目標生きがいが見えてくる
- 働くイメージや魅力が持てる
- 生きる力・人間力の向上

など

地域のメリット

- 地域の次世代育成
- 地域の歴史・文化・産業等の伝承
- 地域の活性化
- 郷土愛のある次世代育成
- 地域で生きる選択肢を伝える

など

議会傍聴で

事前学習

令和2年12月定例会の一般質問時に、子ども議会事前学習として、多良間中学校1年生8名と、先生達が傍聴に訪れました。

実際の議会を体験し、「子ども議員として同じ場所に自分が立つ」ことを具体的に意識できたのではないかと思います。

生徒からの感想では、「初めて議会をみて話の内容は難しかったけど、質問する時の仕方や答える時の仕方が分かった。子ども議会では、今日見た事を活かして頑張りたいです。」と意欲を示していました。



一般質問では、水納島航路船の利用状況や、多良間村の超高齢者社会の対策についてや、今、問題になっている新型コロナウイルスの深刻な問題や、来年行われる村長選挙についてなど議員と村行政の間で緊張感のある深みを持った論戦が展開された。

リハーサルで

段取り確認

いよいよリハーサルの日を迎えました。慣れない議会の進行に少し戸惑いながらも、議会事務局のサポートのもと、一通りの流れを行っていくうえで、よりリアルな議会進行となりました。

印象的だったのが、議長を努める伊藤秀一さんの進行が緊張はあるものの初めてと思えないほど堂々として落ち着いて行っていたので驚きました。そして、議員を務める生徒の皆さんも質問文を全部覚え発言をしていました。

子ども議員の質問の様子には、まだまだ緊張がみられ棒読みになつているところも見られ、声も小さく質問をしていたので担任の先生より、「本番では大きな声で質問をするように」との指導もあり、本番に期待したいと思います。

1月20日は、いよいよ子ども議会！子ども議員にとって、素晴らしいものになるよう、サポートしていきたいです。



本番さながらの緊張感





伊良望の愛
伊良皆議員

特産品開発センターの 利用状況は

―各組合、個人事業者が利用を
している

伊良皆議員 ジェラートや黒糖クッキーが島外で加工されていて、値段が高くなってきていることから、特産品開発センターの利用を考えることを提案します。まずは、特産品開発センターは現在、利用されていますか。利用されていないのであれば、それはなぜですか。

産業経済課長 現在、特産品開発センターの利用状況ですけれども、たらま保存会の皆さんでたらま花茶、あと黒豆、ササゲです、ササゲの袋詰め等に活用されております。そして、個人事業者がたらま七味、これはトウガラシ等の乾燥、袋詰め作業もごさいます。

あの加工製造、あれは袋詰めです。そして、あと農家さん、トウガラシの乾燥機がありますので、乾燥機を

活用しております。また、敬老会等、あるいはコミュニティー祭り、村行事で婦人会による手作り料理の販売等にも活用されております。黒豆、先ほど申しましたササゲです、ササゲの選別機もごさいますので、今後利用促進をしていきたいと思っております。

議会豆知識

ササゲとは？

主に乾燥した種子を餡あんにしたり、赤飯に用いたりした利用をする。寒さに弱い、暑さや乾燥に耐える。夏場の食卓に重宝される野菜。



―17の目標を決め、目標達成に
向け取り組んでいる

SDGsには17の目標があるが、 多良間村の取組は



垣花優里
かきはな ゆうり
議員

垣花議員 今、世界でSDGsが話題になっていて、私たちも学校で講話を聞きました。SDGsには17の目標がありますが、多良間村は現在、その中どの目標を達成するためにどういった取組を行っていますか。

村長 子どもたちの未来に豊かな環境を残していきたい、この気持ちは世界共通であります。しかし、世界は急速に発展し、同時に様々な問題を引き起こしています。例えば、貧困や飢餓、自然破壊、人権問題などです。そこで、同じ地球に住んでいる以上、これだけは世界の国々が一緒になって取り組んでいきたいと思います。取り決めたのがSDGsであります。

1 貧困をなくそう。豊かな人と貧しい人との差がなるべく少ない村づくりに努めています。

2 飢餓をゼロに。飢え死にするような人がこないようしようということ。農業生産を上げるために取り組んでいます。

3 全ての人に健康と福祉を。国民皆保険医療保険制度を活用しながら、村民一人一人の健康と福祉を守るため取り組んでいます。ワクチン接種やコロナ対策も行っています。

4 質の高い教育をみんなに。子どもたちの教育環境の整備、大人も教育訓練ができる環境づくりを行っています。

5 ジェンダー平等を実現しよう。男性も女性も平等であるべきであり、女性がその力を発揮できるように政治、経済、公的生活に参加できるようにすることが目標とされています。多良間村においては、一昔前と比べて女性の活躍が多くなっています。

6 安全な水とトイレを。安全・安心な水が十分供給されています。

7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに。太陽光発電、風力発電などの導入を行っています。

8 働きがいも経済成長も。過労死が絶対起きないように、国が進めている働き方改革を推進し、村民の所得向上に取り組んでいます。

9 産業と技術革新の基盤をつくろう。

農業発展のため水あり農業の推進、観光産業の振興に取り組んでいます。

10 人や国の不平等をなくそう。 どの地域の人も快く迎える、地域で支え合う村民性が培われています。

11 住み続けられるまちづくり。 生活基盤の整備、地震、津波や台風といった自然災害の非常事態に備えた準備を進めています。

12 つくる責任、つかう責任。 不法投棄やポイ捨てが現在でも見受けられます。自分たちの地域は自分たちで守る、一人一人の行動で環境美化に努めることが大事であります。

13 気候変動に具体的な対策を。 地球温暖化の影響で一つに南極の氷が溶けることによる海面上昇が問題となつていきます。私たちにできることは何でしょうか。電気を小まめに消すなどエネルギーを無駄にしないことです。

14 海の豊かさを守ろう。 大雨は土地改良事業などで赤土流出対策など海を汚染しないよう対策を取っています。

15 陸の豊かさを守ろう。 土地改良の後には必ず防風林帯をつくるための植林を行っています。

16 平和と公正を全てのの人に。 平和で全ての人が平等に参加できる住民参加型の地域づくりに心がけてい

ます。

17 パートナリシップで目標を達成しよう。 行政にできること、村民にできることを協働で頑張ることを目指しています。一人一人の行動が大切です。

ピンダアースの銅像などインスタ映えスポットの設置を

取り組んでいる事業と考えながら、実際につくっていききたい

垣花議員 観光客が訪れて、写真撮りたくなるような場所があれば、その写真をインスタグラムなどのSNSでアップされているのを見てほかの人も訪れたいくなるのではないかと思いますので提案します。

観光振興課長 ただいまの提案、インスタ映えスポットの設置、とてもよいアイデアだと思います。1か所だけの整備というのはなかなか取り組むのには小さいですので、どの場所にどんな観光、写真のための撮影スポットをつくるかということを検討して、今現在、観光振興課で取り組んでいる事業との兼ね合いを考えながら、これ実際につくっていききたいというふうに思います。



嘉手苺一葉 議員

方言教室の開催を

意見を参考に開設の方向で検討していききたい

嘉手苺議員 私達は、実際に方言を話すことができません。しかし、方言はなくてはならない文化だと思えます。なので、月に何回かでも方言教室を開催し、子どもたちが少しでも方言を使えるようになってほしいと思いますし、おじいとおばあとの交流もできるからです。

教育長 ご指摘のとおり、方言は大切な文化です。多良間島独特の文化を子どもたち、後世にどのような形で継承して残していくかというのは、大人の責任でもあります。どのような方法で継承していくか、教室を開催するのか、先生はどういう形で招聘するのか、様々な方法があると思いますので、ご意見を参考に開設の方向で検討していききたいと思えます。

少し質問に関連しまして、方言文化を継承していくために、多良間村

教育委員会ではたらまふつ辞典をつくりました。この辞典を活用するために、副読本、音声も聞けるCDもつけております。ぜひ、多良間の方言は図書室でも勉強できますので、逆に提案させていただきます。

観光振興拠点施設等でのフリーマーケットの開催を

観光協会と連携を取って実施していききたい

嘉手苺議員 観光客の方々は、地域の方々、生産者との交流を求めているそうです。なので、地域の方々にばなばんびんやお菓子などを作って販売するフリーマーケットを開催してもらい、観光客の方々が作った人から直接買うことができる機会をつくり、交流してはどうでしょうか。

観光振興課長 この施設は、一般社団法人多良間村ふしやぬふ観光協会が事務所を置いて施設を管理しておりますので、観光協会とも連携を取って実施していききたいと思えます。それから、産業経済課において農産物の販売を時々行っていますので、観光客が見えたときに交流したり活用したりできると思いますので、ぜひ取り組んでいききたいと思えます。



きよむら いっせい
清村 議員

農業や畜産、素潜りなどを体験するツアーの開催を

―仕組みづくりができれば実現可能

清村議員 宮古島に企業見学に行つた際に、観光客の方は都会ではできないことを体験したいという希望が多いと伺いました。ツアーによる観光客の誘致はもちろん、農家の方や畜産家と提携し、ツアーと称し作業人員を確保し、負担軽減も図れるのではないかと考えています。また、熱帯魚が多良間は多いので、素潜りツアーは人気が出ると思います。実際に、農業体験は成功例も多くあり、全国的に人気もあるので、多良間でも検討してみてもいいでしょうか。

観光振興課長 一般社団法人多良間村

ふしやぬふ観光協会が設立され、実際に観光協会が仕組みづくりを取り組む準備を進めております。その際に課題になるのは、農家、畜産農家、漁師などの連携、協力、理解をいただきながら、仕組みづくりをつくってまいります。

ファームステイと他県との生徒交流の受け入れをしてみても

―勉強、相談をしながら取り組みたい

清村議員

1 ファームステイの提案です。一定期間住み込みで農業体験を行い、農業だけでなく島民の暮らしもできるより深い体験活動です。

2 児童・生徒を留学で受け入れる提案です。他県では山村留学という制度が行われています。小・中学校に児童・生徒を受け入れる制度で、生徒との交流や生徒数の増加を図ってみてはいかがでしょうか。

産業経済課長 地域資源を活用した

滞在型旅行で観光客を呼び込み、伝統的な生活体験、そして村内の方々との交流を図ることで地域の活性化が図れることは、農業体験の中で労働力の確保にもつながります。農業、水産業に携わる方々などと、ファームステイ（農業体験）の地域活性化について勉強してまいりたいと思います。

教育課長 沖縄県内では離島の3か

所で離島留学体験が行われているようです。この事業を行うためには、制度づくりの整備体制を整えないといけないところがあります。今後、勉強、相談をみんなできながらやっていきたいと思っております。



とぐち れいら
渡口 議員

多良間村での過疎対策の取組は

―住宅の確保や雇用を村のホームページで募集などの取組をしている

渡口議員 今、多良間は過疎化が進んでいます。それを止めるために、多良間に人を呼ぶ必要があります。その方法として、外からの人が住むための家、職場を用意する、みんなが使っているSNSなどで多良間を宣伝するという方法があると思いますが、現在、多良間村が過疎化を止めるために取り組んでいることは何かありますか。総務財政課長 過疎化対策として行っていることは、村外からの移住希望者の積極的な受入れに向けた住宅の確保が必要だと考えており、定住促進住宅を現在5戸整備し、今年度、コンテナハウス2戸、そして空き家を活用した住居の整備も進めているところです。雇用の確保については、観光業の促進を進めている水あり農業による高収益作物の導入等により安定した農林水産業の振興、そして新たな特産品開発により雇用の場を増やしていければと考えて

ております。募集は村のホームページで行っています。これからSNSで色々な村内の情報等を拡散していけるように検討していきたいと考えております。

八月踊りを島外にいる方達が戻ってきやすい環境作りを

―島外から来たい方は戻って参加をする体制が一番いいと考えている

渡口議員 他地域では、地域行事の際、子どもたちは出席扱い、社会人も年休を使わず特別休暇をもらい地域行事に参加できるように地域から文書が配布され、学生や社会人が祭りに帰ってきやすい制度がつけられています。多良間の八月踊りでも、同様に村長が字長から文書を出し、島外にいる多良間出身の人たちが戻ってきやすい環境をつくることはできませんか。

村長 八月踊りは、ただそれだけではなく、これをいかに継承していくかが大事です。できれば地元にいる方で継承していけるような体制が一番理想的だと思います。島外から戻らないと、八月踊り自体ができないという形になると非常に厳しい状況になっていると考えなければいけません。できる限りは地元でやり、戻りたい方は戻って参加するという体制が一番いいのかなというふうに考えています。



くしけんあき
具志堅 晶紀
議員代理

特産品のネット販売を

—事業者の皆さんと協力をし、ネット販売ができるように取り組む

具志堅議員 私達は、企業見学に行った際に、コロナ禍でもネット販売でマンゴーを3,000万円売り上げたという話を聞きました。実際に訪れなくても販売する方法もあるということ、多良間村も特産品などをネット販売することを提案します。
産業経済課長 昨年からの新型コロナウイルスの感染の影響により、沖縄の産業まつり、離島フェアのイベント開催がオンライン販売になっており、多良間村でも、各事業者の皆さんの商品を出品しております。昨年8月にジェラート、3種類が100セット限定でふるさと納税でのネット販売を行いました。今回の離島フェアをきっかけに、今後は多良間村の事業所の皆さん全員で協力して、ネット販売ができるよう取り組みたいと思います。

特産品にキャッチフレーズをつけてみては

—公募をして活用をしていきたい

具志堅議員

多良間の特産品を知らない人の購買意欲を高めるために、商品名に工夫をしようかと思っています。例えば、ヤギ汁の商品名に「世界一クセがすごいお土産」というインパクトのあるキャッチフレーズをつけて興味を持ってもらったり、それをSNSで拡散したりすれば、多良間の特産品の認知度が上がると思います。

産業経済課長

多良間村をPRするために、観光課、観光協会等でフェイスブックなどのSNSを活用しており、多良間村のホームページも新しくなりますので、観光課、観光協会のフェイスブックも含めどんどん情報発信をして、PRしていきたいと思っています。離島フェア2020において、多良間村からたらまんぼーとジェラード3種が優良特産品特別賞を受賞しまして、受賞シールも貼れますので、宣伝効果は大きいと思います。これまで、中学校の皆さんには、黒糖クッキーのデザイン、ジェラードのパッケージラベルのデザインに協力していただきました。キャッチコピーについても、ぜひ皆さんに公募して活用していきたいと思っています。



はまかわ ゆうご
濱川 悠伍
議員

観光スポットを音声で案内できるように、タブレットの貸出しを

—まずは、スマートフォンで見られるような仕組みを考えたい

濱川議員

観光スポットを音声で案内できるように、タブレットを貸出しできるようにできませんか。また、12月に中学校で観光名所の看板にまつわる問題を設置し、解きながら巡る島内オリエンテーションに参加しました。いつもより看板に書かれていることをしっかり読むきっかけにもなり楽しかったので、そういった方法もぜひ検討してほしいです。

観光振興課長

多良間村において、観光のガイドをできる人が少ないことが課題になっております。ITを活用したガイドをこれからは取り組んでいく必要があります。タブレットの貸出しについては、まずはスマートフォンで見られるような仕組みを考えたいと思っています。
教育課長 教育委員会のほうでは、令和3年度沖縄振興特別推進交付金郷土資

島外職業講話や企業見学に観光振興課の方も同席してみよう

—協議会での提案を考えている

濱川議員

今回、僕たち1年生は、職業人講話、企業見学でたくさんの仕事や観光について学んできました。実際、多良間村でもできそうなことも多くあり、とても参考になる貴重な経験になりました。しかし、僕たちが聞いて学んだことを多良間村に伝えようと思っても伝える機会がありません。ですから、私からの提案は、講話や企業見学に、観光振興課の方も同席してはいいかがですか。

教育課長

多良間村グッジョブ地域連携協議会というのがありまして、観光振興課長、産業経済課長も委員となっており、協議会を開催して、皆さんが行っている事業の内容や次年度に向けての内容について協議会の中でも報告もされ、検討もされております。協議会が2月にありますので、今おっしゃった提案を協議していければと思っております。

多良間村議会 議長あいさつ



議長
森山 実夫



本日は、子ども議会を開催するに当たり、村議会と同じ方法で議会を運営され、皆さんは日頃感じた多良間村の課題や中学生らしい発想で質問の数も多く、子ども議会を盛り上げていただきました。未来を担う子ども議員の皆さんは、本日の子ども議会の体験を基にし、村議会や村役場の仕事を十分に理解されたかと思えます。これからの多良間村について関心を深め、未来の多良間村の発展のためにご協力いただきたいとご期待申し上げます。

教育長講評



教育長
池城 三千雄

中学校1年生のプロジェクトT、3年目になりました。過去2年間に重複する質問もありますが、企業訪問で皆さんの調べ学習、見る角度の違いから内容がより深くなってきております。今、議会でも、初めてSDGs、持続可能な開発目標の質問がありました。国連加盟国で取り組む国際的な取組に、多良間中学校の生徒の皆さんが取り組んでいることに感動を覚えております。もう一つ、議会で初めてSNSという文言を3人の議員が質問の中で使用しております。ICT技術の目覚ましい発展で便利な世の中になりましたが、間違った使い方をすると、犯罪に巻き込まれたり被害者になったり加害者になったり、社会問題となっていることにも気をつけていただきたいと思います。方言の質問もありましたが、本来の趣旨が独り暮らしの高齢者と交流する手段として方言を取り上げております。ちょっと私の回答がずれておりましたが、方言を通してのいいボランティア

活動につながるものだと思います。方言につきましては、大切な多良間の文化ですので、ぜひ家族や身近なおじいさん、おばあさんのいる議員は、毎日方言で会話をする機会をつくってください。いつの間にか方言が身についてくること間違いありません。皆さんに、今後の活動として期待することは、本子ども議会でも質問して、答弁がありました。それをここで終わりにしないでください。持ち帰ってみんなで話し合いをして、自分たちができる、例えばSDGsの取組がないか話し合いをしていただきたいと思います。プロジェクトは、キャリア教育のプログラムの一環として実施しております。自分の将来のために今何ができるか、主体的に進路選択を意識し、皆さん自身の2年後の高校受験のことも十分に考慮して、日常生活、学校生活、家庭生活を送ってください。本子ども議会でも、皆さんのアイデアを提案していただきました。大変参考になりました。私たちの多良間村がもっともっと住みよい村になるためにはどうしたらいいか、皆さんのアイデアと活動に大きな期待を込めて講評いたします。



子ども議会を終えて



議長
伊藤 秀一

僕は、今回初めての議会だったので、始まる前は「大丈夫かな」ととても心配になり、何度も台本を読み返していました。始まったときは、緊張がピークまできて、少し嘔んでしまいました。でも、時間が経つと落ち着いてきて、話すことができました。村長さんや課長さんたちを指名するときは、絶対に間違えないようにとめちやくちや気を遣いました。終わったときはとてもホッとしました。あまりミスもなく進行できたので良かったです。



緊張はあるものの、堂々として落ち着いて進行を務めていました。



多良間中学校教頭
高里 真一郎

多良間村子ども議会は、本校キャリア教育の一環として、よりよい村民生活活性化に向けての課題や疑問を見いだし、生徒自ら考えたことを質問し、多良間村に貢献できる資質・能力を養う機会として企画しています。生徒の目線で多良間島の事を真剣に考え、近い将来、さらに多良間島が活性化している姿を想像しての質問・提案をしてよかったと感じました。また、その質問・提案に関して、村長・教育長・課長の皆さまが、生徒向けにわかりやすく丁寧に答弁していただきありがとうございます。さらに、「すばらしい提案・発想ですね」という生徒への労いの言葉や前向きな答弁に関して、生徒たちはとても充実感と達成感を感じていました。また、子どもたちは、しっかりと質問を要望して良かったと話していました。何らかの形で自分も多良間島に貢献できるような人材になりたいと思ひ、子ども議会のねらいが達成できたのではないかと感じました。「15の島立ち」の前に、故郷活性化について真剣に考え、発信できた事は、今後のキャリア形成に大きな影響を与えるでしょう。そして、子ども議会開催にご協力いただいた伊良良皆村長はじめ池城教育長、各課の課長、村議会議員、議会事務局の皆さま、誠にありがとうございました。



一年生担任
上里 公人

今回、こども議会に関わることが出来てとても光栄に思います。準備の段階でも講話や見学に対する生徒の目の輝きがとても良く、また実際に過去の提案が採用された事例があることから、取り組みに対する真剣度も高まり、どのように質問すれば伝わるのか発表の技能を育てる良い機会になりました。議会に関わる皆さんが真摯に生徒の活動に伝えてくれるからこそだと思ひ、とても感謝しています。質問の意図が伝わらなかつた部分も少なからずあったので、その点も今後の学習における課題としたいと思ひます。僕自身とても学ぶことの多い1年になりました。生徒の今後につなげられるよう努力していきます。





一年生副担任
高江洲 礼芽

この度、子ども議会へ携わることになり、これまで見えていた島の現状、島外企業見学等後の島の現状を深く追求することで改めて出身地である多良間島のことを生徒同様、深く知るきっかけとなりました。また、議会で自分の意見を述べるということで自ら多良間の現状と向き合い、解決したいと生徒全員が準備の段階からとても真剣に取り組んでいました。

本番では、全員が堂々と自分の意見を発表し、議会終了後も「やり切った!」と、とても満足そうに話していました。自分の生まれ育った島のことを知る良い学びの機会となりました。とても貴重な場を設けていただきありがとうございます。



二年生担任
武島 功

子ども議会を傍聴して、とても意義深い取り組みであると感じました。議会で質問するということが、普段何気なく考えている地域の現状や課題を深く考えなければ質問できないことから地域のことをより深く考える機会になったと思います。子どもたちが主体的に地域の課題を把握し、また自らのアイデアを提案する場が与えられた良い学びの機会であったと思います。また社会科の教師の立場から、子どもたちの自治意識、参政意識を育む学びであったと感じています。自分自身も今年度多良間中に赴任し、多良間村での取り組みや自治体の組織体制など興味深いことがたくさん知れました。この取り組みが継続し、多良間村の発展に寄与していくことを願っています。

議員からの感想

「島を想う気持ち」が伝わってきた

多良間村議会議員も、子ども議会を傍聴しました。議員お二人から感想を頂きましたので、その内容を紹介します。



多良間村議会
議員
安里 三喜男
監査委員

8名の議員（生徒達）の質問を聞いて、子供達の目線、大人の目線でも共通する部分もあり、新しい課題なども見ることができた。地域のおじい、おばあとの交流につながっていく方言教室の開催。方言で生活している大人の世界では、なかなか思いつかない発想である。これは、島でも進んでいる高齢化社会の中で、介護の現場などでの話にもつながっていく大事な話でもある。素晴らしい提案だと思う。過疎化について。「Uターンする若者が住むための家、職場を用意してはどうか」との質問。全国多くの自治体でも、過疎化対策は最優先課題である。「雇用のないところに定住なし」という言葉がある。私たちの多良間島でも非常に重要な重大な問題提起である。提案や要望がたくさんあった中で、自分の考えを言葉に変えて発言できる子供達の行動力は素晴らしいの一言。将来の活躍に期待。



多良間村議会
議員
福嶺 常夫
総務建設常任委員長

生徒の皆さんは、村の事を想う気持ちを素直に堂々と具体的に質問していて大変よかったです。村の現状や課題を調べ、村民がいきいきと幸せに暮らせる村づくりについて、感じる事や身近な問題、将来の課題などよく考えて提案、質問は地域を想う気持ちがよく伝わりました。産業振興においては、特産品の開発、観光産業による村の活性化、伝統文化、行事の継承などの提案は島を想う気持ちからの発想と内容であったと思います。村の将来を担う子ども達の大きな成長を期待します。担当課は、提案の中で実現できるものは早期に対応してもらいたい。



子ども議会議員
多良間中学校一年生

- 1番 伊良皆 望愛
- 2番 垣花 優里
- 3番 嘉手苺 一葉
- 4番 清村 一生
- 5番 渡口 怜羅
- 6番 西筋陽斗(欠席)
- 6番 具志堅 晶紀(代理)
- 7番 濱川 悠伍
- 担任 上里 公人
- 副担任 高江洲 礼芽
- 教頭 高里 慎一郎
- 2年生担任 武島 功

議会事務局

- 局長 波平 長市(欠席)
- 書記 比嘉清作(代理)
- 安里 姫花

地域おこし協力隊

- 撮影 大戸 理絵



説明のために
出席した職員

- 村長 伊良皆 光夫
- 教育長 池城 三千雄
- 政策参与 運天 宏和
- 総務財政課長 仲宗根 春光
- 税務会計課長 下地 まり
- 住民福祉課長 佐和田 一八
- 土木建設課長 垣花 剛
- 産業経済課長 亀川 一成
- 観光振興課長 清村 賢一
- 教育課長 翁長 艶子
- 空港管理課長 高江洲 克一

多良間村議会議員

- 1番 富原 安則
- 2番 福領 常夫
- 4番 安里 三喜男
- 5番 本村 健次
- 6番 豊見山 正(副議長)
- 7番 森山 実夫(議長)

子ども議会
傍聴人数

9名

有難うございました

編集を終えて

子ども議会を振り返って、生徒の皆さんが島外企業見学の体験を通して島の現状を深く追求しており、私も改めて多良間島を深く知ることが出来ました。

リハーサルの時は、まだまだ緊張が見られ、棒読みになつてるところも見られました。本番では、前を向いて全員が堂々と発表していたのでとてもよかったです。

私の時には、子ども議会がなかったので、今の生徒達がこのような場で島の事を想い発言出来ることは、とても貴重な体験なので、途絶えさせないように議会事務局も頑張りたいと思いました。

子ども議会だよりを2年ぶりに発行しましたので、ぜひお読みください。

議会事務局 安里 姫花

